



ココロさんの ひとごと

2020年5月 No.12

失って気づく大切なこと

感染症拡大防止に伴う休業措置、そして緊急事態宣言の発令やそれに伴う自粛生活と、世の中の状況は昨年度末から大きな変化をもたらしました。当センターも現在のところ、電話でのご相談にのみ対応しています。学びたくても学べない、働きたくても働けない、当たり前の日常が大きく変わった現在、私たちは様々なことを思わざるをえません。失われた快適な生活について、自分の将来について、会えない友達や社会の状況についてなど、考えない日はないのではないのでしょうか。



「何かがなくなって初めて、それについてきちんと考えることができる」という人間の心の仕組みを改めて実感しているのではないのでしょうか。例えば、子どもがいつも一緒にいる親と離れて過ごす場合などでしょうか。おばあちゃんのおうちに預けられた子どもは、そこにいない親について考えざるを得ません。「いつ迎えにくるのかなあ」と思い、似たような背格好の人が通ったら、「あれ、お母さんかも?」と思ったりします。このとき子どもは親がいないという寂しさを感じ、いつも一緒だったという“当たり前だったもの”について考える機会に恵まれるといえます。



さて話は変わりますが、この自粛の続く中、私はひょんなことからある名作アニメを見ることとなりました。『ドラえもん』です。例によって主人公ののび太くんは、シャイアン、スネ夫に仕返しすべく、ドラえもんから道具をねだります。動物に変身できるドリンクを出してもらったのはいいものの、より強くなりたいのび太くんは、ドリンクを何本も飲んでしまい、様々な動物に次から次に変身し、收拾がつかなくなってしまいます。結局、仕返しをするどころか、這う這うの体で家に逃げ帰り、思惑と全く違った結末になる、というオチです。

ドラえもんという万能的な科学の力を借りて、周りの環境を自分に都合よく変えようとするのび太くん。しかしその科学の力が強すぎて、結局思いを叶えられないのです。私はそこに現代人の特徴がよく表れているように感じました。私自身も自粛前は、「いつでもどこでも、好きに移動して欲しいものを得られること」を当たり前だと思っていました。環境を自分の都合で選んでいけることを、自由や主体性と錯覚していたところもありました。便利なことに慣れすぎた今、私たちはやはり立ち止まる必要があるのではないのでしょうか。失くして気づく大切なことについて考える機会なのです。いかに私たちが快適さばかりを追求して、一日健康で過ごせることが当たり前でないことなのか、などです。

ドラえもんがいなくなる回では、のび太くんは失って初めてその存在のありがたみをしみじみと感じます。ドラえもんがいるときよりもっとリアルにその存在を体験することになるのです。“ない”状態は、“ある(あった)”をもっともビビッドに教えてくれるといえます。今、私たち自身が味わっている失われた存在を、いつもの日常に戻ってもどうか忘れないで、次の時代に教訓として生かしたいものだなと感じる次第です。

